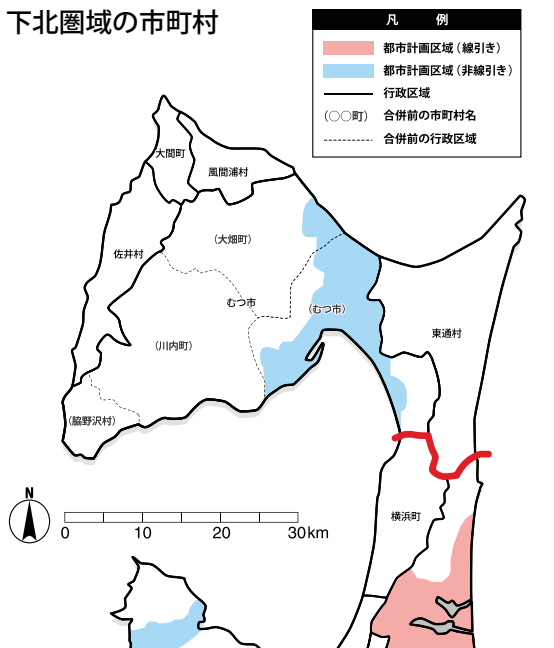


下北圏域

自然環境・生活文化・科学技術が調和する、自立した生活創造圏域

- [構成市町村] むつ市・大間町・東通村・風間浦村・佐井村
(1市1町3村)
- [人口] 83,752人
(青森県全体の5.8%／平成17年国勢調査より)
- [面積] 141,487ha (青森県全体の14.7%)

図 下北圏域の市町村



下北圏域は青森県の北東部に位置し、むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村の1市1町3村により構成されています。人口は青森県全体の5.8%、面積は青森県全体の14.7%を占めています。

本圏域は、下北半島中部の恐山や宇曽利山湖をはじめ、周囲を陸奥湾、太平洋、津軽海峡の豊かな海に囲まれた自然豊かな圏域です。

また、半島中部の山々を起点として陸奥湾や津軽海峡方向へ川が流れており、生活用水や農業用水として利活用されています。

下北半島一帯はかつて南部藩領に属し、むつ市田名部に代官所が置かれていた他、大間、奥戸、佐井、牛滝、川内、大畑、大平は「下北七湊」として、北前船が出入りする港として栄えました。

昭和の大合併では2町が合併し、むつ市(当初は大湊田名部市)が成立し、その後平成の大合併により(旧)むつ市、川内町、大畑町、脇野沢村が合併し、現在のむつ市が誕生しました。むつ市以外の1町3村は明治時代の成立で長い歴史を誇っています。

I 下北圏域の特徴と課題

(1) 豊かな自然環境をいかした地域に根ざした産業が息づく圏域

特徴 1

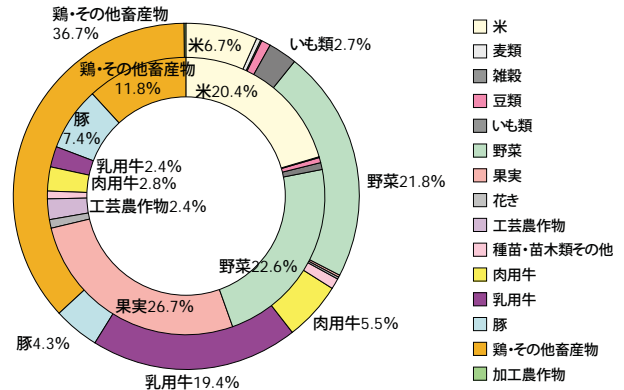
第一次産業総生産額の構成は、水産業が約6割、農業が約3割、林業が約1割となっており、漁獲金額は増加傾向、農業産出額はほぼ横ばいで推移

しています。

複雑な海岸線に沿って35の漁業集落があり、三八圏域、東青圏域に次ぐ漁獲高、漁獲量となっています。特産品としてホタテ、マグロ、アワビなどがあります。

夏季にヤマセが吹く涼涼な気候を背景に、農業産出額の中では畜産の割合が高くなっています。野菜は、だいこん、ばれいしょの大規模な産地が形成されています。森林は国有林の割合が7割と高いことが特徴で、青森ヒバの産地として知られています。

図 平成18年農業産出額の品目別割合
〈外周:下北圏域 内周:青森県〉



資料:生産農業所得統計

課題 1

豊かな自然環境をいかし地域に根づいている農林水産業は、圏域経済や地域文化を支える重要な柱として持続的な発展が求められています。

特徴 2

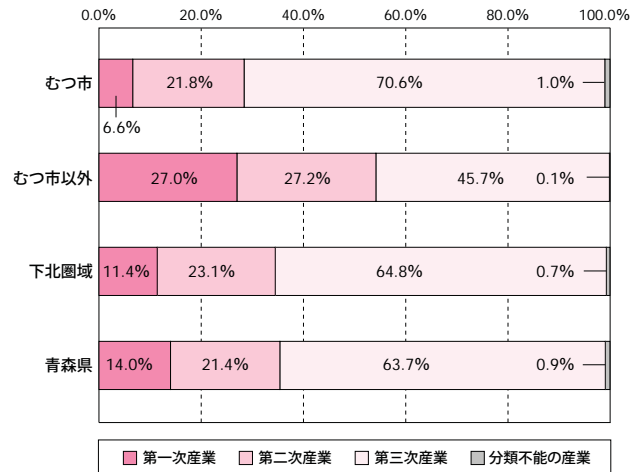
本圏域の産業構成は二極化が見られ、むつ市では第三次産業の割合が高く、他の町村では第一次産業と第二次産業の割合が高くなっています。

また、域内総生産額をみると電気・ガス・水道業の占める割合が他圏域に比べて高いことが特徴です。

東通原子力発電所では稼働中の1基を含め全4基が計画されている他、大間町ではMOX燃料を使用可能な原子力発電所が建設されています。むつ市には、原子力発電所の使用済燃料中間貯蔵施設が平成24年の運転開始をめざして計画されています。

また、東通村には大規模な風力発電施設が立地している他、上北圏域などとともに「環境・エネルギー産業創造特区」に指定されるなど、環境・エネルギーを基軸とした産業展開が期待されています。

図 平成17年産業分類別従業者数の割合



資料:国勢調査

課題 2

先進的なエネルギー開発技術の蓄積や豊かなエネルギーの供給力をいかした産業展開が求められています。

特徴
3

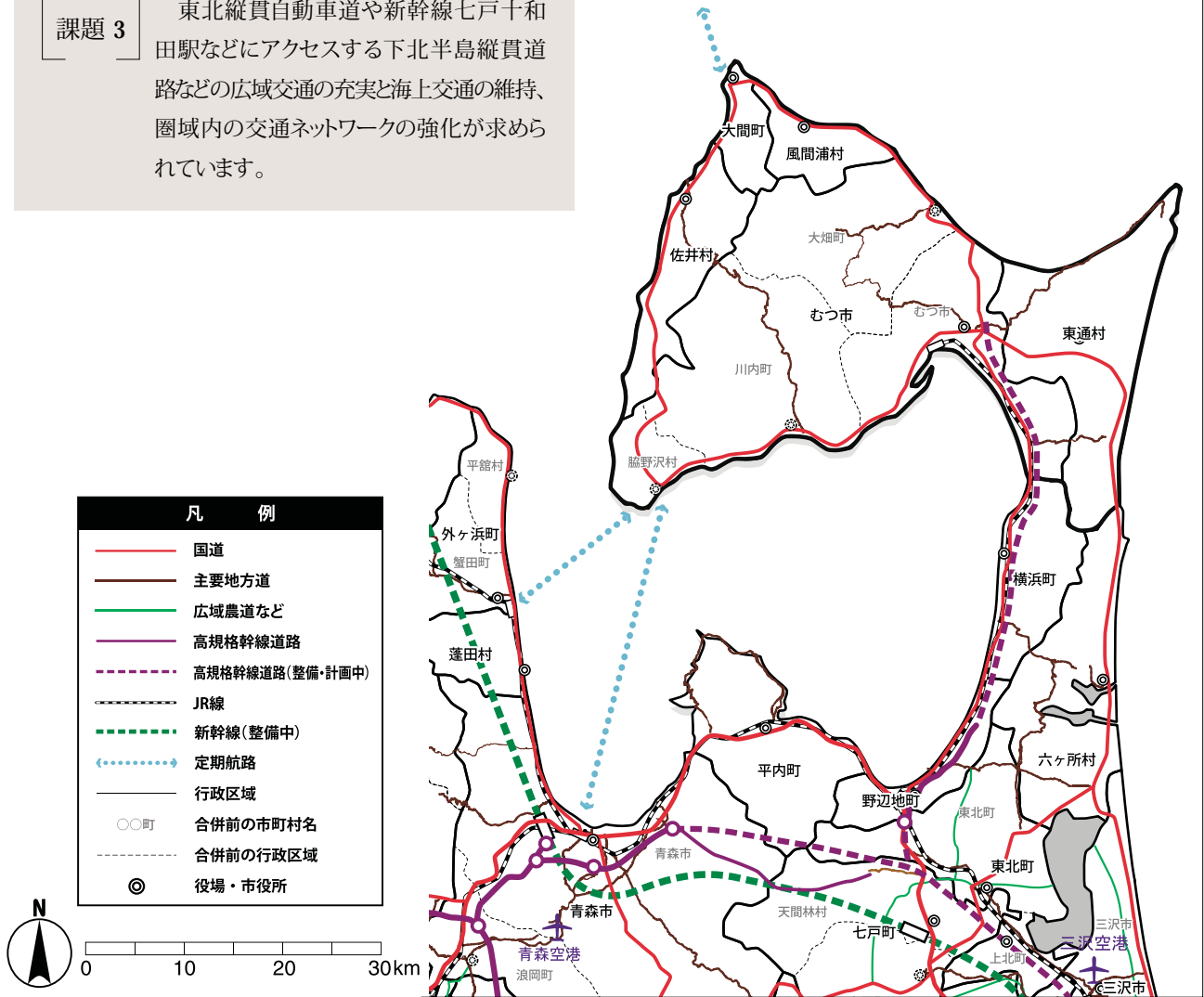
圏域の物流を支える基幹道路としては、海岸沿いに国道279号、国道338号が整備されています。むつ市内では代替路が少なく、朝夕には通勤車両による交通渋滞が発生しています。また、地域高規格道路として、むつ市と東北縦貫自動車道を結ぶ下北半島縦貫道路の整備が進められています。

課題 3

東北縦貫自動車道や新幹線七戸十和田駅などにアクセスする下北半島縦貫道路などの広域交通の充実と海上交通の維持、圏域内の交通ネットワークの強化が求められています。

本圏域は半島部という地理的条件から、青森市、津軽半島や道南地域との産業、観光などの交流面で海上交通が重要な交通手段となっています。特に、大間・函館間のフェリー航路は物流と観光などの各側面において重要な役割を果たしており、今後は北海道新幹線の開業をいかにした広域観光のさらなる展開が期待されています。

図 交通網の状況



(2) むつ市を中心とした独立性の高い圏域

特徴
1

中央部の平地を挟んで東部と西部は山地や丘陵地であり、三方を海に囲まれた独立性の高い生活圏を形成している圏域です。むつ市に圏域人口の76.5%が集中し、行政、交通、商業、医療などの都市機能が

集まり、強い求心力を持つ中心都市が形成されていますが、高度医療や大学などの高次都市機能については青森市などに依存しています。半島の北西部では、フェリー航路で結ばれた函館市の高次都市機能に依存しています。

課題 1

独立性の高い本圏域では、圏域全体で必要となる主な都市機能を圏域自らが担う必要があります。

特徴
2

圏域全体の人口がこの10年間で大きく減少し、今後も減少が続くと推計されることから、都市的サービスの効率低下が懸念されます。圏域の暮らしを支える都市機能を存続させるためにも、圏域全体での定住環境づくりが重要となっています。

むつ市は国・県などの行政機関の他、商業、業務、医療、教育、文化などの多方面において中心的な役割を担っています。む

図 医療依存度

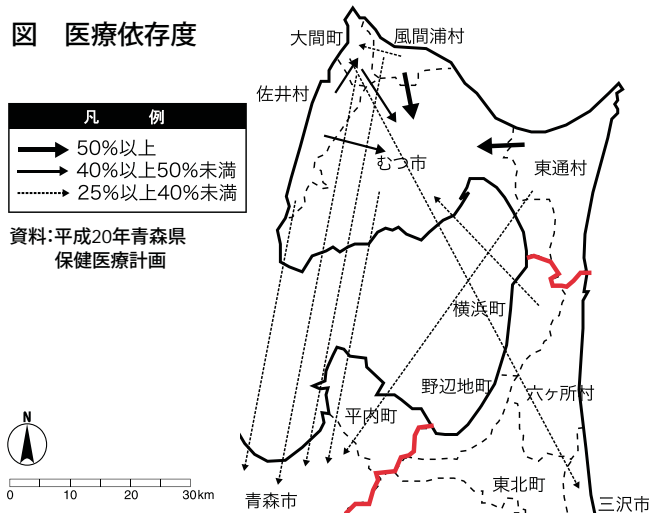
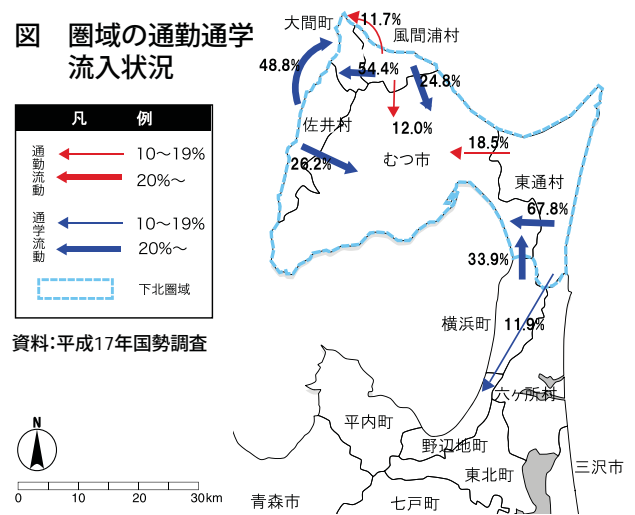


図 圏域の通勤通学流入状況



課題 2

魅力ある暮らし、文化的な暮らしを営める定住環境づくりが求められています。そのため、むつ市では圏域全体をカバーする都市機能の整備充実を図り、圏域全体のニーズに応えることが求められています。また、むつ市から遠隔地となる半島北西部における大間町による機能補完や、各集落の生活機能の維持が重要です。

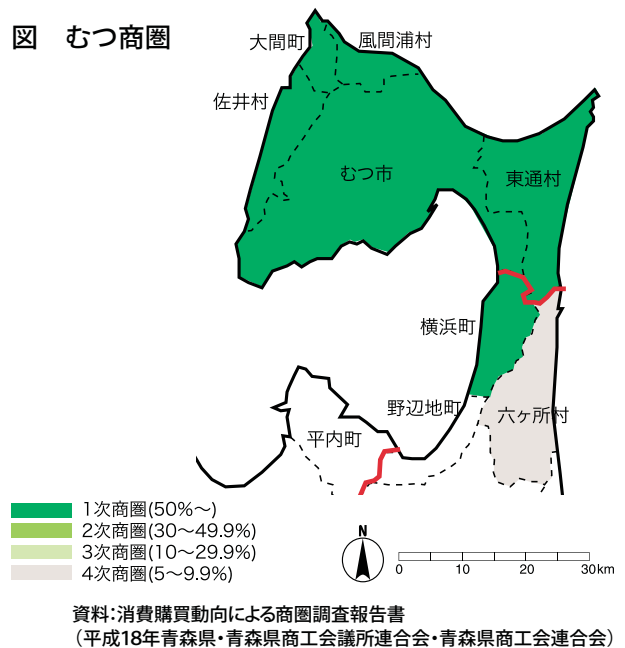
特徴
3

大規模都市を持たない本圏域では、高度医療などの高次都市機能については他圏域の都市に依存せざるを得ません。したがって、青森市や函館市などへの広域交通アクセスは他圏域にも増して重要な意味を持っており、特に下北半島縦貫道路などの早期完成が待たれています。圏域外と連絡する公共交通としてJR線や路線バス、海上交通がありますが、これらのターミナルと圏域内の各地区を結ぶ交通網は十分とはいえません。

圏域内では、道路や鉄道・バスによる公共交通網はむつ市を中心に放射状に整備されています。半島の西部では峠道の冬期閉鎖の他、自然災害によって道路が寸断されることもあるため、海上交通の維持や幹線道路の整備が重要となっています。

また、東北新幹線新青森駅の開業に伴いJR大湊線と接続するJR東北本線が青い森鉄道へ移管されるため、青森市や八戸市方面への交通利便性の維持が求められています。

図 むつ商圈



課題 3

冬季や自然災害時も安心して代替交通によるアクセスを確保でき、高次都市機能を楽しむよう、下北半島縦貫道路の整備をはじめ、鉄道、フェリー・定期旅客船、バスを組み合わせた広域交通網の維持・充実が求められています。

II 圏域の将来像

自然環境・生活文化・科学技術が調和する、自立した生活創造圏域

三方を海に囲まれた地理的特性を背景に、中心都市のむつ市では自立性の高い都市機能が集積するとともに、漁業などで栄えた各集落ではそれぞれ独特な伝統文化が育まれてきました。しかし、本格的な人口減少時代の到来とともに、こうした中心都市や各集落の機能縮小も懸念されることから、海上交通を含む圏域内外の交通ネットワークの充実により、圏域全体で支えあい、自立性ある定住環境の維持を図るとともに、豊かな自然環境と調和のとれた産業開発や、自然をいかした魅力的な暮らしの創造をめざします。

このような将来像を(1)産業、(2)生活、(3)環境の各側面に分け、そのあるべき空間構造を整理すると、以下の(1)~(3)のように描かれます。

(1) 海の恵みと観光、科学技術による活力ある産業圏域

基幹産業である漁業や観光業、畜産業の発展に資するため、海や森、伝統文化、優れた景勝地などを保全し、風力・原子力発電所、国の研究機関などの先進的な科学技術を基軸とした産業が展開する圏域をめざします。

恵み豊かな海域を保全するための下水道整備、広域的観光の展開に寄与する広域交通軸の整備などにより、圏域を代表する基幹産業の持続可能な発展をめざします。

(2) 自立性の高いむつ市を中心に、安心生活を営める圏域

地域の多様な伝統文化をいかしながら、むつ市においては自己完結型の中心都市の機能充実を図るとともに、遠隔地の半島北西部では、大間町を中心に3町村が身近な都市的サービスを補完しあう圏域の形成をめざします。

時間距離の短縮や公共交通の維持に配慮しながら、むつ市と周辺都市を結ぶ交通網の充実を図るとともに、青森市や函館市などが供給する高次都市機能を利用できるよう、下北半島縦貫道路の整備と海上交通の維持により、充実した都市的サービスが隔々に行きわたる圏域をめざします。

(3) 幽玄な自然環境と生活文化が魅力を高めあう圏域

圏域を象徴する自然環境や自然景観の保全に努め、市街地と自然環境が近接する環境をいかした魅力的な生活が営める圏域の形成をめざします。

市街地開発が自然環境に悪影響を与えないように、市街地の無秩序な拡大を防ぎ、市街地と自然の共生を図ります。

下北半島国定公園をはじめとする豊かな自然環境や、圏域の誇りとなっている景勝地の保全と活用をめざします。

III 都市づくりの方針

(1) 「海の恵みと観光、科学技術による活力ある産業圏域」

【土地利用に関する視点】

- 持続可能な発展に資する森林・農地の保全
- 水産業を支える漁業集落の維持
- 既存市街地との調和に配慮した工業地の計画的配置と産業拠点の形成
- 科学技術を基軸とした産業・エネルギー開発の計画的配置
- 漁業や観光業の礎となる海や森、景勝地の保全

【都市施設の整備に関する視点】

- 「下北まるごと観光」及びエネルギー産業をはじめとする産業基盤を強化する、下北半島縦貫道路や広域交通網、拠点間連絡道路の整備



(2) 「自立性の高いむつ市を中心に、安心生活を営める圏域」

【土地利用に関する視点】

- むつ市における圏域全体をカバーする都市機能の維持
- 大間町における医療・教育・文化分野を中心とした補完的都市機能の維持
- 農山漁村においても豊かで快適な生活ができるよう、主要集落の生活機能の維持
- 集落固有の文化を支える漁業集落の維持

【都市施設の整備に関する視点】

- むつ市に集積する公共公益施設などの利用を促進する交通アクセスの利便性向上
- 農山漁村においても豊かで快適な生活ができるよう、むつ市と結ばれた公共交通網の維持と利便性の向上
- より高次な都市的サービスを楽しむことができるよう、下北半島縦貫道路、国道道、フェリー、鉄道など、他圏域とを結ぶ広域交通網の整備
- 冬季の交通確保や交通弱者への配慮に重点を置いた交通環境の充実



(3) 「幽玄な自然環境と生活文化が魅力を高めあう圏域」

【土地利用に関する視点】

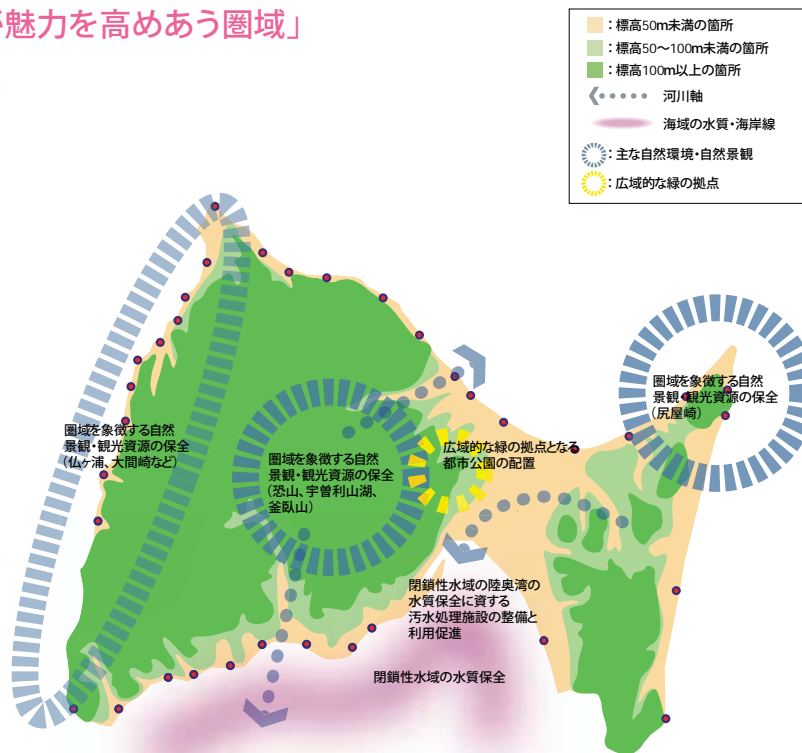
- 市街地の無秩序な拡大の防止
- 市街地と自然地が近接する環境をいかした、自然に身近にふれあえる魅力的な居住環境の形成

【都市施設の整備に関する視点】

- 閉鎖性水域の陸奥湾の水質保全に資する公共下水道などの整備
- 広域的な緑の拠点となる都市公園の配置

【自然的環境の整備または保全に関する視点】

- 圏域を象徴する自然景観の保全
- 仏ヶ浦、恐山などの観光資源の保全と活用

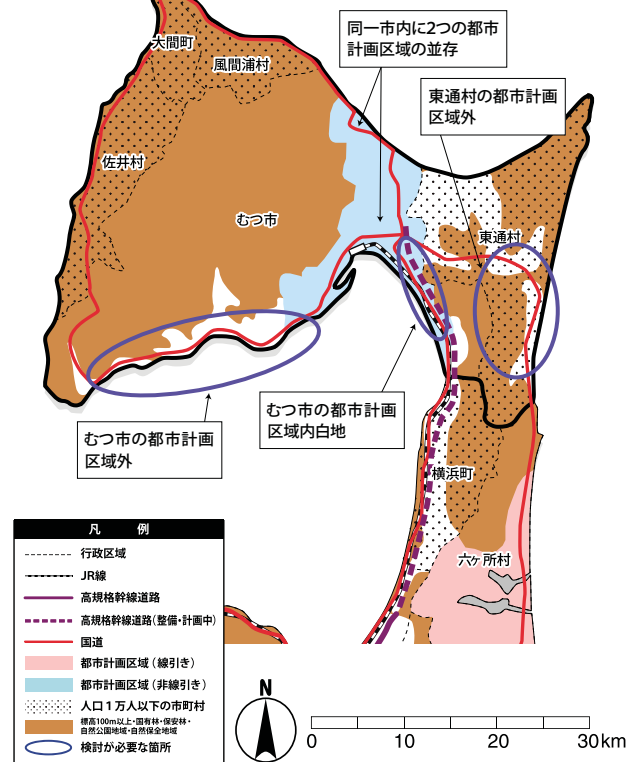


IV 圏域としての土地利用マネジメントのあり方

課題

- ▶ むつ市では、旧むつ市と旧大畑町の合併により、同一市内に2つの非線引き都市計画区域が並存しており、都市計画区域の再編について検討が必要です。
- ▶ 都市計画区域外のむつ市川内地区や脇野沢地区では、開発の動向はみられないものの、合併により今後一体の都市として居住環境や自然環境を保全する観点から、むつ市としての土地利用マネジメントのあり方について検討が必要です。
- ▶ 都市計画区域外の東通村では、現在の開発圧力は高くないものの、エネルギー関連の施設立地がみられる他、地形が平坦で営農意欲次第では開発や荒廃が進むことも懸念されるため、良好な農地や自然環境の保全が必要です。
- ▶ むつ市の非線引き都市計画区域の白地地域で、特に幹線道路沿道や下北半島縦貫道路のインターチェンジ周辺、市街地周辺など、周辺環境にそぐわない施設が立地するおそれのある地区においては、建築制限など適切な土地利用コントロールが必要です。

図 下北圏域における都市計画上の主な課題



検討すべき項目

- むつ、大畑の都市計画区域は、市町村合併や地理的条件など、現状の市街地の一体性を鑑みた都市計画区域の統合を検討します。
- むつ市川内地区や脇野沢地区においては、市町村合併後の実態を踏まえながら、一体の都市として整備、開発及び保全する必要がある区域かどうかを検討します。
- 都市計画区域外の東通村で良好な農地や自然環境などの

保全が必要な地区では、今後の開発動向を踏まえながら、必要に応じ都市計画区域や準都市計画区域の指定を検討します。

- 下北半島縦貫道路のインターチェンジ予定地であるむつ市の非線引き都市計画区域白地地域では、交通利便性の向上から開発ポテンシャルが高まると予想されることから、周辺環境との調和の観点から特定用途制限地域の指定などを推進します。